

優秀賞

私たちにできること

葛尾村立葛尾中学校

三年

伊藤

愛佳

「SDGsの目標達成のためにエコなタオル作りをしましょう。」

家庭科の先生の言葉で、私たちのエコで環境に優しいタオル作りが始まった。エコなタオルとは、「さらし」を使って作るタオルだ。

なぜ「さらし」でタオルを作るのかというと、通気性と吸水性を兼ね備えているからだ。家庭科の授業の中で、「さらし」の特性について先生から教わった。昔は、ラップ代わりに使われたことや、キッチンペーパーの用途として重宝されていたそうだ。

梅雨の時期に母が、洗濯物が乾かないと嘆いていたことを思い出した。バスタオルは大きくて分厚く、乾くには少々時間がかかる。生乾きになったり、雑菌が繁殖したりと衛生面でも心配がある。その不安を解消するのがこの「さらし」タオルである。

さらに、「さらし」タオルは、洗濯の際に使う水や洗剤の量も減らすことができる。生地が薄く、かさばらないのも特徴の一つである。それは、SDGsの六番目の目標である「安全な水とトイレを世界中に」に繋がると考えた。節水することで有限である水を長く使えるようになる。それに加え、十四番目の目標「海の豊かさを守ろう」にも関連する。洗剤を減らすことで川や海へ流す生活排水量が減る。私たちの生活をほんの少し変えるだけで、未来がもっと明るくなるかもしれない。環境に優しい「さらし」で作ったタオルに変えれば、将来私たちが少しでも長く資源を使えるようになる。私たちの行動が十年、二十年後の世界を豊かな姿に変えていくのだ。

新聞やニュースでも日々、SDGsに関する情報が飛び交っている。十五年の間に十七の目標を達成

しようとして企業や自治体が取り組んでいる。大きな組織でしか動けないと思っていたSDGsの取り組みを自分たちでもできる身近なものに感じるきっかけになった。

「さらし」タオルの試作品を自分たちで試してみると生地がごわごわしていて普段使っているタオルと使用感の差が出た。しかし、使用していくにつれて使い心地も良くなった。薄いので水を絞って拭くこともでき、便利だという声も上がった。これなら、すぐに生活に取り入れることができると感じた。

修学旅行先で訪れた只見中学校で、SDGs委員会のみなさんから新聞紙エコバッグの作り方を教わった。マイクロプラスチックを減らす活動を率先して行っていた。只見町の商店街に作った新聞紙エコバッグを配付し、プラスチック製の袋を使わないように、一丸となって取り組んでいると伺った。私たちと同じ中学生でも町を巻き込んで活動していることに刺激を受けた。私たちもまずは葛尾村の中で「さらし」タオルの普及を目指した。

そこで、葛尾村の復興交流館に、自分たちの成果

物を展示し、村民のみなさんに私たちの取り組みを知っていただくことから始めた。家庭科の授業の学びとして「さらし」タオルを作り始めたきっかけや「さらし」の特徴などをまとめ、タオルも展示した。また、福島民報新聞の意見投稿欄へも、この取り組みを先輩が投書した。投書がきっかけで福島市の女性からたくさんの方が学校に届けられた。同じ活動をしていて、役立てて欲しいということだった。とても心が温かくなり喜ばしい気持ちでいっぱいになった。こうした活動を通して繋がる輪を実感した。この輪をもっと大きく広げる可能性を見出せた気がした。

私たちが発信していくことで、「さらし」タオルの普及が広がり、少しずつでも水の大切さや、エコな生活を心掛けてくれる人が増えると嬉しい。未来は私たちの行動によって変わる。豊かな資源を守れるかは私たち次第だ。葛尾中学校の全校生徒は四名しかない。私たち四名から出来ることを呼びかけ、世界中の大きな輪へ繋がるよう、行動していきたい。